

町でうわさの若者を紹介。

夢に向かって全力で進む若者を応援します。

頑張っているもの

テニス(硬式)

名前 ふじもと あおい
藤本 葵 さん(18)

行政区 辻団地

九州学院高校3年生

平成26年度第37回全国選抜高校テニス大会九州地区大会出場／平成27年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)テニス競技女子団体の部出場
所属:同校女子硬式テニス部



「ダブルスで相手に崩されながらも、お互いにかバーし合い、勝てた時が一番楽しい」とテニスの醍醐味を語るのは藤本葵さん。

中学の時、ソフトテニスの最後の中体連で団体優勝を逃し、悔しい思いをした。反面、厳しい練習に耐えたというやりきった感があつた葵さんは、高校でもテニスを続けるか迷った。だが進学時、「テニスのことしか浮かびませんでした」と、部活動体験で先輩と話が弾んだ硬式テニス部を選択した。

サークルみたいな雰囲気だった。「それでもいいや」と入部したが、新入部員の中に県でトップクラスの人たちがいたことで状況は一変。チームの目標は「インターハイ出場」に。

うまい人の「足を引つ張らないように(笑)」について行く葵さんに1年後、思わぬ展開が。誰とも気さくに話す葵さんを部員たちが新チームのキャプテンに推薦したのだった。「やられました(笑)」。同時に悩みも生まれた。

自主性が強調される同部で練習メニューを考え直すなど積極的に行動した。だが、部員のレベルの差に戸惑う中、指示に自信が持てず、「びくびくしていました」と振り返る。やり方も部員たちとの温度差を強く感じた。「このままではいけない」。葵さんはみんなと正面から向き合い、とことん話し合った。

それから葵さんの中にあつたモヤモヤは解消。「吹っ切れた」という葵さんは、部員から相談を受けるなど信頼される存在となつていった。そしてチームは県高校総体で団体初優勝、インターハイ出場を現実のものとした。「やめたいと思つた時期もあったけど、楽しかったし続けてよかったです」。そう話す葵さんの表情にはやり遂げたという充実感が漂う。この経験を活かして大学受験に臨む葵さん。「これからは新しいことにも挑戦したい」。